

登 録 速 報

農 薬 名：ベストパートナー豆つぶ250（登録番号：第 22809 号）

適用拡大登録月日：平成27年9月9日

適用拡大登録内容：

- 作物名「直播水稻」の使用時期「稲出芽揃期～ノビエ3葉期 但し、収穫 60 日前まで」を「稲出芽揃期～ノビエ3葉期 但し、収穫 45 日前まで」に変更する。
- 適用土壌、適用地帯の区分を廃止する。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピリミスルファンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツハイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ ヒルムシロ セリ コウキヤガラ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植後 3 日～ ノビエ3葉期 但し、 移植後 30 日まで	250g /10a	1 回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人ヘリコプターによる散布	2 回以内
直播水稻	水田一年生雑草 及び ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ ヒルムシロ	稲出芽揃期～ ノビエ3葉期 但し、 収穫 45 日前まで			湛水散布 又は 無人ヘリコプターによる散布	

注意事項の変更：

【削除】

- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。

【変更後】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカは3葉期まで、ウリカワは2葉期まで、

オモダカ、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。

- オモダカ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 散布の際は、やや深めの湛水状態（水深5～6cm）にして水の出入りを止めること。
- 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かにおこなうこと。
- 藻類・表層はく離などの水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため、周縁散布をさけ、本田内で、水田全面に散布すること。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）。
 - 軟弱苗を移植した水田。
 - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。
 - 出芽前の稲に対して薬害を生じるおそれがあるため、稲の出芽が揃わない場合は、稲の不完全葉期以降に散布すること。
 - 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさけること。
 - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤は吸湿性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないように注意して散布すること。濡れた手で扱わないこと。また、開封後は早めに使用すること。
- 無人ヘリコプターで散布する際は以下に注意すること。
 - 散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
 - 事前に薬剤の物理性に合せて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離して圃場内に散布する。
 - 水源池、飲料水などに飛散、流入しないように十分注意する。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。
- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別

途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以 上